

第 5 回東アジア包摂都市ネットワークの構築に向けた国際ワークショップ
～包摂都市の実践とビジョン～

The 5th East Asian Inclusive City Network: On the Practice and Vision of Inclusive Cities

2015 年 9 月 23 日（水）～25 日（金）、台北市にて「第 5 回東アジア包摂都市ネットワークの構築に向けた国際ワークショップ」が開催された（主催：中華民国專業者都市改革組織 [OURs]、社会住宅推進連盟、社団法人台湾芒草心慈善協会、共催：都市研究プラザ [URP]、国立台湾大学建築と城郷研究所、後援：台北市政府、外交部、都市里人規劃公司）。

本ネットワークは今年で 5 年目を迎えることになり、香港に続き、今回は台北が主催都市として、都市における社会的不利なコミュニティや下層の人々の生活、就労、居住などの課題に着目し、政府提案、学術研究及び実践経験から様々な可能性を探り、東アジア都市間の社会的弱者の居住福祉に関するネットワーク構築に寄与することを目指している。

全体プログラムは以下の内容であった。

- 23 日 台北市都市再開発及び社会的不利層への支援体制に関する見学
- 24 日 ワークショップ I
社会的不利層の居住現状問題と実践経験
- II 都市再開発と社会的不利層の居住問題
- 25 日 III 社会的不利層への支援と事業創造
- IV 賃貸市場による居住弱者への支援

初日（23 日）は、台北の現場における居住問題のイメージをつかむため、合計 4 ヶ所の見学を行った。まず午前、台北市都心部周辺の南部にある「ヒキガエル山集落」を視察した。本集落は戦後形成した不法占拠地区であり、現在取り壊しの危機に直面している。住民の居住権を強く訴え、2013 年から立ち退きに反対している若者が「ヒキガエルオフィス」を立ち上げ、地域の保全運動を進めている。

続いて、初期の国民住宅（≒公営住宅）も立ち並んでいる「南機場コミュニティ」を訪ねた。そこで、国民住宅の社会的と建築デザインの案内を受け、里長である方荷生氏からコ

ミュニティセンターにて、住民たちへの支援体制についての説明を受け、フードバンクや子どもへの教育支援の教室などの見学を行った。

午後は、新北市にある「台北市ホームレス収容センター」へ足を運んだ。台北市社会局が直営している施設であり、84 名のキャパシティを有している。特に稼働力の弱いホームレスのシェルターとして位置づけられており、社会福祉と保健看護と生活支援という 3 つの総合的な機能を果たしている。再入所者が 70% も占めており、特に低廉住宅の不足で、自立生活へのステップが困難になっている課題が著しい。

最後に萬華区にある「萬華恩友センター」と「台北市萬華社会福祉センター」「台湾芒草心困難者自立支援センター」の視察を行い、台北市の中では最も社会的条件不利地域として知られている萬華区におけるホームレス支援の現場の案内を関係担当者より受けた。社会的弱者が集住している地域であるため、未だにスティグマの問題が大きく、これに対する現場からの取り組みが近年ますます増えている。



南機場コミュニティの初期国民住宅の様子

■ ヒェラルド・コルナトウスキ（URP 特任助教）

From 23 to 25 September, together with the main organizers “The Organization of Urban Re-s (OURs)”, “Promotion Alliance of Social Housing” and “the Homeless Taiwan Organization”, The URP and The National Taiwan University Graduate Institute of Building and Planning co-hosted the 5th East Asian Inclusive City Network with the support of the Taipei City Council. Its mission is to establish an East Asian network between the cities of Osaka, Taipei, Hong Kong and Seoul to academically and pragmatically promote housing welfare for socially disadvantaged communities. This time, the workshop was organized in Taipei. On the first day we visited communities in squatter areas, public housing estates and inner-city quarters. The remaining two days we held indoor session on various topics of precarious housing.

2日目(24日)は、URP所長の阿部昌樹、国会議員の陳節如氏、台北市政府社会局局长の許立民氏の挨拶から幕を開け、ワークショップが開催された。

「社会的不利層の居住現状問題と実践経験」および「都市再開発と社会的不利層の居住問題」がこの日の共通テーマとして設定され、日本からは、山田理絵子氏(大阪府立大学大学院修士課程)、志賀信夫(URP特別研究員)、西上孔雄氏(NPO法人すまいるセンター代表理事)が登壇した。1日目のエクスカッションにおいて訪問した南機場コミュニティに関連した報告をはじめ、総勢14名による報告と熱のこもった意見交換がおこなわれた。日本からは、「台湾のホームレスの生活歴とその特徴」(山田氏)、「地方都市におけるインクルーシブなまちづくりの新たな試みに関する理論的分析」(志賀)、「泉北ニュータウン榎塚台校区におけるエイジング・イン・プレイス」(西上氏)という3つの報告がなされた。

ワークショップ終了後には、元ホームレスがガイド役を務める「街遊 Hidden Taipei」主催による街歩きに参加した。この日がガイドデビューだという阿俊氏を船頭に、彼のライフストーリーに耳を傾けつつ、西門の街を探索し、現在は若者の街として栄える姿とはいささか異なるかつての情景に思いをはせた。嬉々として語る阿氏の笑顔が印象的で、コミュニティに根ざした就労支援のひとつのかたちとしての可能性を感じることができた。

2日目をふりかえってとりわけ印象的だったのは、台湾におけるホームレスに対するスティグマの強さであった。近年はマスメディアによって犯罪と対にして報じられ、市民の不安を一層煽るような事態を招いているという。犯罪の温床としてのホームレスというステレオタイプがあてはまらないことはいまでもないが、なぜ、そのような考え方が成立するのか、ということについても分析の必要性を感じた。その意味においても「街遊」等の活動がもつ意味は大きい。ホームレスといわれる人びとが、どのような人びとなのか、ということに冷静に目を向ければ、自分とは大きくことなる異質なモンスターではないという現実がみえてくるはずである。

■掛川直之(URP特別研究員(若手・先端都市))

3日目(25日)は、前日に引き続きワークショップが開催され、「社会的不利層への支援と事業創造」および「賃貸市場による居住弱者への支援」を中心的なテーマとして各国参加者からの計13本の報告がなされた。

日本からは、ヒュラルド・コルナトウスキ(URP特任助教)、掛川直之(URP特別研究員)、蕭閔偉(URP特別研究員)、中山徹氏(大阪府立大学教授)が登壇した。

コルナトウスキは「シンガポールにおけるホームレス支援—一国主導型住宅体制下における法的課題と新パートナーシップ」および「日本の生活保護制度の改訂が及ぼす狭小住宅市場における居住福祉ビジネスへの影響」(後者は共同研究を代表して報告)、掛川は「矯正施設出所者に対する居住支援の現状と社会的包摂に向けた課題」、蕭は「高齢化コミュニティにおける地域活性化と再生の動き—都会東京と農村新潟を事例に」、中山氏は「日本のホームレス・生活困窮者に対する政策の展開—生活保護法、ホームレス自立支援法、生活困窮者自立支援法の位置と役割」と題した報告をおこなった。

会場では登壇者による実践報告・研究報告だけにとどまらず、各国で具体的に展開されている制度に関する意見交換や情報交換も活発に交わされた。交換された情報等の中には、実践へのヒントになるものや研究の課題を示唆するものが非常に多く、各国の実践者および研究者が得たものは多かったに違いない。

ワークショップ終盤には、全泓奎(URP教授)より全体総括がなされ、今後の具体的な目標展望として以下の2つの提案がなされた。①これまでの包摂都市ワークショップの成果を整理しまとめていくこと、②アジア型都市論のさらなる発展を目指すために東南アジアとの連携を図っていくことである。全より提案された2つの事項については各国より支持が得られ、今後のさらなる発展を見据えながら、エクスカッションを含めた3日間のプログラムは盛会のうちに終了した。

なお、次回のワークショップは、来年の同時期に韓国での開催が予定されている。

■志賀信夫(URP特別研究員(若手・先端都市))



ワークショップにおける志賀報告の様子



各国参加者の集合写真

大阪市立大学都市プラザ先端都市研究拠点・第1回URP特別研究員(若手・先端都市)研究発表会(合評会) 兼 大阪ソウル都市研究フォーラム

Osaka City University's Urban Research Plaza (a Platform for Leading-Edge Urban Studies) Holds the First of This Year's Semi-annual Research Presentation Workshops for URP Young Special Researchers in Coniunction with the Osaka-Seoul Urban Research Forum

2015年9月17日(木)～18日(金)にURP船場プラザにて、今年度第1回の合評会とフォーラムを開催した。

17日は阿部昌樹URP所長の挨拶から始まり、研究員が研究進捗状況の報告や研究発表を行った。

志賀信夫は、宮崎県北部のまちづくり活動・「結い」を対象とし、地方都市での反貧困・反排除活動がもつ特質と課題を解明するため、共同体意識の理論的分析を試みた。山田信博は、空き住戸増加と福祉需要増大の解決策として、公営住宅の空き住戸をグループホーム、県庁会議室などとして大規模活用する事例を取り上げ、メリットとデメリットを指摘した。全ウンフィは、京都府宇治市の在日不法占拠地区・ウトロが存続した背景として、当該地域の開発過程、当事者運動の主体と性格の段階的变化を整理した。鄭榮鎮は、戦前より多くの在日朝鮮人が居住する八尾市を対象に、「プル要因」としての産業・労働のありようとその時期的推移を分析した。

Hsiao Hong-Weiは、公営住宅という概念の再考を課題とし、大阪市内公営住宅の調査計画を述べた。孫ミギョンは、「在日コリアン家庭に眠る歴史資料発掘キャンペーン」事業の活動を紹介し、その意義と史料活用の展望を述べた。島崎未央は、近世大坂において種物と納屋米・雑穀を商う問屋に兼帯がみられることに注目し、特定産地との関係をもつ問屋が専業問屋として把握されるプロセスと兼業の実態把握を試みた。

黒沢悠は、現代の社会経済システム概念化には創造産業の分析が不可欠だとし、フランス・リールにおける企業経営・労働慣行の実証分析にむけた研究計画を述べた。Stefania Olivaは、現代都市のさらなる発展に寄与しうる概念として「回復力」「革新」「創造性」を挙げ、日本の災害都市の復興過程における政策過程と共同体が果たした役割を分析するという研究計画を述べた。

また17日には、李柱憲副教授(ソウル市立大学)を迎えてのスペシャルセッションを行った。講演ではソウルの開発過程を整理したうえで、コミュニティ創出と都市間協力が現在直面する課題だとの指摘があり、討論では、都市への過剰人口集中に伴う「地方消滅」をにらみ、都市行政の再考と共に都市間の研究交流の重要性が確認された。



講演中の李教授

▼9月17日(木)

開催挨拶(10:00～10:10)

阿部昌樹(都市研究プラザ(URP)所長)

Session1～2(10:10～14:15)URP特別研究員研究発表

志賀信夫

「地方都市におけるインクルーシブなまちづくりの新たな試みに関する理論的分析」

山田信博

「公営住宅の用途廃止による大規模活用の検討(中間報告)」

全ウンフィ

「非都市型集住地区における民族表象の在り様」

鄭榮鎮

「八尾と在日朝鮮人の関係史(序論)」

Hsiao Hong-Wei

「Re-mobilization and Re-socialization support for disadvantaged household in public housing community」

孫ミギョン

「在日コリアンの歴史資料発掘キャンペーンの意義と資料の活用方法に関する研究」

島崎未央

「都市大坂における種物問屋仲間」

Special Session(14:25～15:50)

大阪ソウル都市研究フォーラム

スピーカー：李柱憲副教授(ソウル市立大学)

「SEOUL's Journey of Innovation」

Session3(16:00～16:50)URP特別研究員研究発表

黒沢悠

「創造産業のポリティクス」

Stefania Oliva

「Resilience, Path Creation and Innovation」

※17日の司会は堀裕典(URP特任講師)、川井田祥子(URP特任講師)、櫻田和也(URP特任講師)が交替して務め、タイムキーパーは上村修三(拠点コーディネーター)が務めた。

▼9月18日(金)

Session4(10:00～10:50)URP特別研究員研究発表

Johannes Kiener

「大阪市のインナーシティにおける遊休物件のコンバージョンによる場所の再成」

掛川直之

「矯正施設等出所者に対する居住支援」

Ivan Romic

「Using mobility data to measure attraction strength of clusters」

※司会：高岡伸一(URP特任講師)

タイムキーパー：上村修三(拠点コーディネーター)

現地視察(10:50～15:00)

レクチャー：八木滋氏、呉偉華氏

船場フィールドワーク

18日の発表はまず、ヨハネス・キーナーが、大阪市西成区、北区中崎町、住之江区北加賀屋を対象に inner city の歴史的な性格とコンバージョンの過程に即した類型化を行った。掛川直之は、矯正施設等出所者の再犯防止・社会復帰にむけて、出所者に対する居住支援の現状と課題を述べた。各発表について、多様な視点からの質問やコメントがあり、活発な議論が交わされた。

午後には、船場地域の歴史的展開をテーマにフィールドワークを実施した。事前に八木滋氏（大阪歴史博物館）から、古代から近世にかけての大阪周辺の地形変化と開発過程、近世の浜地・町人地の空間利用の解説を、また呉偉華氏（文学研究科前期博士課程）から、近世の道修町3丁目の社会構造に関する報告があった。

フィールドワークは高麗橋から開始し、『摂津名所図会』にみえる浜地の利用形態と現状を比較したのち、道修町2、3丁目や適塾・愛珠幼稚園の外観などから、近世の家屋敷における商店・居住空間利用のなごりを確認した。また御霊神社では、境内で行われた宮地芝居について、北御堂では、キリスト教・博奕・傾城商売の禁止を誓約した宗旨巻提出の行事について解説をうけるなどし、現在も船場地域に残る人びとの暮らしの痕跡を再発見する充実した機会となった。

■島崎未央（URP 特別研究員(若手・先端都市)）



御霊神社でのフィールドワーク



On September 17 and 18 of 2015, the first of this year's semi-annual Research Presentation Workshops for URP Young Special Researchers in Leading-Edge Urban Studies was held in conjunction with the Osaka-Seoul Urban Research Forum at the URP's Senba Plaza.

On the 17th, beginning with opening remarks from Abe Masaki, Director of the URP, presentations were given by 9 special researchers, and a special session was held featuring Associate Professor Joo Hun Lee from the University of Seoul as the invited speaker. In the discussions with Professor Lee, the 'decimation of the countryside' that has accompanied the over-concentration in cities was spotlighted, and the importance of research exchanges between cities and a reconsideration of urban governance were both reconfirmed.

On the 18th, after presentations by 3 special researchers, field work was conducted around the theme of the historical development of the Senba neighborhood. This became a significant opportunity for rediscovering the traces that still remain today of people's business endeavors in the Senba neighborhood.

■国際シンポジウムの予定

▼11/28 (土) 17:00~20:00

「コミュニティに根ざした社会的企業の実践」

名古屋経済大学 名駅サテライトキャンパスにて

▼12/12 (土) 2015 年度都市研究プラザシンポジウム 兼

日本居住福祉学会国際比較居住福祉セミナー

URP西成プラザにて

※詳細は後日プラザのホームページに掲載

■URP 先端都市特別研究員(若手)公募

募集要項(平成28年2月募集分)は2016年1月に公表を予定しています。

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/about/recruit.html>

■URP-Newsletter 次号は2016年2月に発行予定です。

大阪市立大学都市研究プラザ ニューズレター 第29号

編集長(発行責任者) 阿部昌樹

副編集長 水内俊雄 岡野浩 全泓奎

編集主幹 川井田祥子 尾形由記

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/staff/>

URP

Osaka City University | Urban Research Plaza
大阪市立大学 | 都市研究プラザ

「都市研究プラザ」は、都市再生へのチャレンジとして大阪市立大学が2006年4月に設立した全く新しいタイプの研究教育組織です。「プラザ」という名前が示すように、都市をテーマとする人々が出会い、集まる広場をめざしています。先端的都市研究拠点として、現場や海外での研究・まちづくり活動、さらに、世界第一線級の研究者や政策家と国際的なネットワークを構築しています。

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/>

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 tel.06-6605-2071

e-mail: office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp

所長 阿部昌樹 副所長 水内俊雄 加幡真一

ユニット長 1U 阿部昌樹 2U 嘉名光市 3U 水内俊雄 4U 岡野浩